

平成25年度 第3回石巻市震災復興推進会議 会議録

日時：平成25年9月29日（日）

13:30～15:45

場所：石巻市役所庁議室

【出席委員 16名】

氏名	所属	備考
浅野 亨	石巻商工会議所 会頭	副会長
阿部 勝治	桃生地区住民代表	
阿部 力太郎	宮城県漁業協同組合 代表理事理事長	
浮津 文好	河北地区住民代表	
尾形 和昭	株式会社街づくりまんぼう 代表取締役副社長	
小野田 泰明	東北大学大学院工学研究科 教授	副会長
兼子 佳恵	環境と子どもを考える会 代表	
久門 俊勝	一般社団法人石巻市医師会 副会長	
後藤 宗徳	社団法人石巻観光協会 会長	
西條 允敏	石巻市文化協会 会長	
佐々木 文彦	北上地区住民代表	
馬場 利一郎	石巻市身体障害者福祉協会 会長	
丸岡 章	石巻専修大学理工学部特任教授、東北大学名誉教授	会長
森岡 精一	社会福祉法人石巻市社会福祉協議会 事務局次長	
山崎 信哉	石巻市仮設住宅自治連合推進会 会長	
吉田 忠美	石巻市町内会連合会 会長	

【欠席委員 9名】

渥美 克之	牡鹿地区住民代表	
阿部 洋子	石巻市民生委員・児童委員協議会 会長	
石川 壽一	いしのまき農業協同組合 代表理事組合長	
伊藤 和男	特定非営利活動法人石巻市体育協会 会長	
高橋 和子	河南地区住民代表	
永沼 紀男	石巻地区住民代表	
藤井 勝	貞山三・四・五丁目自主防災会 会長	
山上 勝義	石巻市仮設住宅自治連合推進会	
吉田 薫	雄勝地区住民代表	

## 1 開 会【13:30】

### 2 あいさつ（会長）

○丸岡会長 この会議も回を重ねてきた。毎回委員の方々から提案や思いをいただき、内容も非常に多岐にわたっているが、その中で、この会議の進め方自体に対しても様々な意見があり、住民の立場に立って、もっときめ細かく被災者を支援するテーマを取り上げてもらいたいという意見もある。そうすると、ソフトが重要で、市民も動かなくてはならないという指摘もいただいている。そういう背景で、前回委員の方々に日頃の活動を紹介していただくことになり、委員3名に発表していただいた。今回は、街づくりやコミュニティづくりで広く非常に精力的に活動されている石巻市自治アドバイザーの吉永鴻一さんに会を進めていただくことを計画している。いろいろな意見をいただくとと思うが、これは取り上げられるというものを感じ取っていただき、これからの議論に役立てていただきたい。

### 3 議 事（進行：丸岡会長）

#### （1）報告事項

##### ① 提案等に対する取り組み状況について【資料1】

（説明：復興政策課 遠藤主幹）

○委員 仮設団地の自治会・世話人会という組織は、団地によって時間や内容に非常に格差・特殊性がある。自治会・町内会の行政区としての行政委員あるいは仮設住宅の自治会長という立場が、一緒の人も別の人もいる。役員や集会所の管理人も状況により格差があり、今後の運営は難しいと考える。それぞれの条件を考慮していかないと、新たな問題が出てくる。

○丸岡会長 前回は発言をいただき、非常に微妙な問題だが、個別ではなく全体の体系整理がされていると思うが、そういう活動をしている方にご苦労いただいているわけなので、合理的な体系で運営していることを納得していただかないと、ソフト面の事業展開はうまくいかないと思うので、ぜひ市側のご配慮をいただきたい。

○委員 障害者用の公営住宅について、障害者各位からモデルルームの公開をしていただきたいという意見がある。障害者は仮設住宅で懲りている。風呂場が一番不評である。復興住宅ではあのような施設ではないだろうと言われる。公開の日を決め、意見を聞いてほしい。

○復興事業部長 障害者の方々に見ていただき、意見等をいただく方法を考えたい。

○丸岡会長 事務局はいつでもご質問や要望は受けるということなので、出していただきたい。

##### ② 復興事業の進捗状況等について【資料2】

（説明：復興政策課 中村課長補佐）

○委員 防災集団移転の事前登録について、当初申し込み後からいりませんというのはいいか。

○復興事業部長 原則では、そういう変更はないので、できるだけ自分の状況等にあったもので事前登録していただきたい。

○委員 事前登録した者は、購入するものと見なしていいということか。

○復興事業部長 特殊な事情等があれば相談に乗るが、事前登録について何回も知らせているので、そのとおりにお願いします。事情が変わった場合は、その都度対応する。なんらかの原因で、どうしてもということがあると思う。

○委員 はっきりしておかないと、後で余る問題など出てくるので、できるだけそういうことがないようにしてもらいたい。

○委員 市立小中学校災害復旧事業費に関連だが、河北の大川小学校の新設移転の話はどうなっているか。

○教育委員会事務局長 大川小学校の再建場所については、以前から地域の意見を聞くため、地域の方々で組織される協議会へ場所の選定について意見を伺うことにしているが、まだ答えをいただけていない。こちらで一方向的に決めることなく、地域の方々の意見を伺い決めていきたいと考えているので、現時点ではまだ決まっていない。

○委員 10月6日に防災訓練があるが、学校等公的施設の避難場所としての適切さなど、避難行動で事故が起きないかという点検は済んでいるか。各施設の長の判断に任せているのか。

○危機対策課長 防災計画上で指定避難所を示しているが、全戸配布で地区の避難所のマップもすでに配っている。学校が工事中で使えない所があるが、それ以外のところは教育委員会にお願いしたり、地区の集会所等に避難できるよう調整している。

○委員 防災の関係だが、日和山、羽黒山、館山に駆け上がっていく時に、歩いていくことを前提とすると箇所が少ない。特にお年寄りが上がって行く時には一番近い所を駆け上がる必要があると思うが、その整備や予算取り、例えば1か所しかない所を3か所に増やすなど考えているか。

○危機対策課長 日和山、牧山については、今も避難できる階段等はあるが、そこにスロープ、手すり、夜間照明を整備することについて復興交付金を活用しながら進めている。今年度、日和山は2か所整備を終わらせたいと考えているが、まだまだ整備が必要なところがあり、引き続き整備していきたい。

## (2) 意見交換【レジュメ及びプロジェクターを使用】

テーマ「絆と協働について」

《発表者：石巻市自治システムアドバイザー 吉永鴻一氏》

〔講演〕

○吉永氏 これから委員の皆さんにコミュニティづくりについてどうすればいいかを伺っていきたい。この時間はソフト、コミュニティづくりについて限らせていただく。

○委員 コミュニティづくりに必要なものは、自分たち自身が楽しめる場所を作ることだと思う。

○委員 コミュニティは地域社会で人がつながる単位だが、仮設はあくまで臨時の場所で特質があるので踏み込んだ地域づくりをするのはよくない。様々な価値観や生活設定が違う中で、こうあるべきだということを深めていくと歪が出てくる。今仮設にいる方々は、それなりにいい人間関係ができていようだが、安心安全な生活が基本である。環境整備、子育て・文化活動はボランティアに任せている。仮設で2年半経つが、夏祭り、芋煮会、お茶飲み、カラオケのイベントをやっている。そのほか、ボランティア団体から環境整備を含めていろいろな支援をいただいているが、早く自立して定住社会に移ってもらわなければならない。これからの定住社会でコミュニティづくりは絶対必要である。

○委員 まず、リーダーをどう養成するかが大事だと思う。そのためには、かなり我慢をして諦めず付き合っていくとできない。基本的には、人生観や生き様を変える仕事につながるので、易しいようで大変難しい仕事である。日本人が一番忘れていたことを思い出させ、一人一人に植え付けさせる大変な仕事である。

○委員 吉永さんに手伝っていただき、町内を全部歩いた経験がある。地域住民の方から、合併したら福祉だめになったと言われるが、それは違う。今までは小さいから顔が見えていたが、大きくなれば顔が見えなくなるのは当たり前。見えない部分を皆で補っていく工夫が必要である。そういう経緯があり、仮称まちづくり委員会をつくり、町内13か所で行った。しかし、関心がなく、集まった人は少数であった。このように作りたいという意見はたくさん出たが、誰が先導に立つのかとなると誰もいない。だから、人づくりが一番大切だろうと思う。現在も自治組織があるが、私の地区の場合は東日本大震災による崩壊はしていないが、組織に入るのが世帯主一人だけで、年齢層も決まっている。コミュニティをやるためには、異年齢の育成会、老人クラブなど各種団体の人たちを交えて話をしないと進まないと思う。

○委員 リーダーシップが重要だという話かけると、同じ人がリーダーでいる期間が長いと疲弊して続かない。リーダーではないが地域のためなら頑張ろうとか、大変だけど未来への投資だから頑張ろうとか、要するに「子どものために」という思いがないと先に進まない。フォローシップをどういうふうにするか、子どもを育てるのは大変だが、安心して育てられる環境を作ることができれば、いい方向性に向くと思う。

○委員 コミュニティづくりは団体生活が基本だと思う。また仮設で生活する人とリーダーが情報共有すること。2年半が過ぎ、仮設で生活する人も自力で生活していくという意気込みが必要だと思う。

○委員 私の住んでいた地区は、ほぼ仮設に入っている。住宅を直し残っている人もいる

が、住宅を流された人のほとんどが家を建てられない。そういう中で、どうしていいかわからない。

○委員 小範囲のコミュニティや小さな団体は、一生懸命活動するので成果が上がるが、逆に言うと大きなものできない。大きなものをやるために組織を作って広くすると、集中部が出て効率が悪くなる。その時にうまく運営できるのは、力のある人がリーダーシップをとって引っ張っていく存在であるか、または皆で集って頑張ろうとする体制を作って協力し合うことができる石巻になってほしいと思う。

○委員 昔から残っている契約講など、いい意味で地域を支えてきた組織が自治会に移行しているが、契約講の精神をもっと見直し、覚悟を決めたリーダーをいかに支えるシステムを作るか、自分の考えを示さない仲間をいかに引っ張り上げ、コミュニティの一員と自覚してもらえるかというシステムを作ることが大事だと思う。

○委員 市からの受託事業等で、みなし仮設・仮設の支援活動を行っているが、そこで聞こえてくるのは、今住んでいる地域の住民の方々との関わり合いがないため、交流を持ちたい、地域の方々との交流を持ちたい、共通の趣味を持つ住民の集まりがあれば参加したいなど、団地内の交流や地域の住民の方々との交流をもちたいというニーズである。現在、試行錯誤しながらサロン会や料理教室など人が集まる機会を設けて住民の方々へ参加を促すサロン活動をやっているが、今は種を蒔いている段階である。話すとか笑うなど、ストレスを発散させたり他の人とコミュニケーションを持つといった「つながり」がコミュニティ形成と考えている。そこに住んでいる人が情報を共有し、助け合い、支え合い、ふれあい、そして顔の見える関係や付き合いがコミュニティづくりと考える。

○委員 身体障害者の協会の運営をやっているが、私の考え方として、障害者も一人の同じ人間だということを出していきたい。障害者でもできることはある。地域にいろんな事業があるが、健常者中心の集まりになっていないか。障害者のできる部分もないと障害者が入ってこられないと思うので、協会も事業をやっていくうえで、会員だけの行事ではなく、家族、友達、ボランティアの皆も興味のある方は一緒に行事に参加してほしい。障害者もできることはできるということを、意識改革していきたい。

○委員 自分が注意していることを話すと、他者と接する時に、なるべく自らの心を開くということ、考えの違う人と対峙しないこと、一番難しいのが人の悪口を言わないことである。

○委員 現在、長寿社会、高齢社会で活力あるまちづくりをしていくためには、なんといっても健康を保たなければならないと思う。

○委員 市民の力、地域の力、福祉の力、この3点が必要だ。また、地域では「子ども会育成会」という名称ではなく「子ども育成会」という名称で、その地域の全世帯が子どもたちを支援する形を作ればいいと思う。昔のままの子ども支援、団体生活に慣れさせることが大事だと思う。

○委員 復興住宅の新しいコミュニティが出てくると思うが、その中でコミュニティのあ

り方としては、まず住民が知り合う、次にそのエリアに出る課題を皆で学び合う、そしてその課題を扶助の精神で解決していくということで、知り合い、学び合い、助け合うことで、その中での本当のコミュニティが育っていくと考える。今回被災を受けて地縁のコミュニティであった地域では、ボランティアという新しい風が入ってきたことにより、リーダー性を持った方が入ってきたことを、どういうふうに素直に受け入れて、今後高齢化あるいは人口減少する地域で活かしていくかが大切だと思う。それをいかに取り込んで定住化させていくか、仲間を引き付けられるかが大事だと思う。コミュニティの継続の秘訣は、人の力を借りる素直さを持つこと、気を張らずに楽しく運営することだと考えている。

○委員 昨年度からこの会議に関わっているが、今回の震災は、全国で蔓延している地方の疲弊が顕在化され、わかりやすく我々の目の前に据え付けられている。ピンチであるが、皆なんとかしなくてはと思っており、チャンスでもある。コミュニティは非常に重要で、ある委員がリーダーは重要と言ったが、たしかに覚悟を持ったリーダーは必要だと思う。だが、それは少数なのでうまくいけば見つかる。一番大変なのは、地域を構成している一般の人の心。例えばこの会議は、市の執行部も地域の代表も出ているが、もうちょっと若い世代が必要である。全体を取り込んでいくことが絶対必要条件だと思う。その時に、あまり無理をせず、今自分たちはチャレンジしているという義務感ではなく進めていかないと地域全体を動かす力にはならない。

○吉永氏 最初と最後の言葉、楽しくやるということが一致した。今日の声を基に、今度は対話をしながら詰めをやっていくと思う。

#### 〔意見交換終了〕

○丸岡会長 吉永さん、ありがとうございました。

今後も吉永さんにご助言をいただきながら、進めていきたいと思う。

○委員 今、市民一人一人が活躍できる場を提供している。そのフィールドが「石巻に恋しちゃった」で、夏も大盛況に終わった。自分の持つ特技や趣味を一つのパンフレットにして、一人一人が主役になれる街、ハードルのないフィールドを作っている。これを11月にまた開催する。年3回ほど開催し、その中でいろんな人たちが育っていき、リーダーの育成につながっていけばいいと思う。1枚持ち帰って11月に皆さん参加いただき、石巻の市民もこれぐらい頑張っているということを応援していただきたい。

○委員 湊西地区の既成市街地のまちづくりは、平成25年6月都市計画決定済、完成目標年次平成32年度となっている。この地区は中小企業体に移ってくるエリアなので、大変だと思うがスピード化をもってビジョンを示してほしいと思う。

○復興事業部長 今の件については、早期に整備できるように進めている。

○委員 前回震災に係る医療費の免除の件で伺ったが、新聞等を見ると宮城県が方針を出し、全世帯ではなく低所得者を中心に検討しているようだが、どうなっているか。

○**健康部次長** 県の方で、国に医療費の一部負担金の免除の継続の要望を9月12日に提出しているが、まだ国からの回答はない。県では、昨年度までと同様に対象者を絞ることなく継続してほしいと要望している。それが叶わないなら、範囲を狭めて要望するようだが、今申し上げたように国から回答がまだ来ていないということである。なお、石巻市としても、対象者を狭めることなく昨年度と同様の形で実施するように要望してほしいと県に要望している。

○**委員** 都市公園事業の中瀬公園だが、漫画館は徒歩でしか来られない。避難路はどう考えているか。

○**産業部長** 発災の際、見学者をいち早く高台の方に避難させ、無事を確認した後は避難所的に何日か過ごした経緯がある。それを教訓に、避難誘導の体制を再度確認し、災害に備えている。基本的には、近くの高いビル若しくは避難路の方に誘導させていく。具体的に施設をどうするというわけではないが、避難誘導の体制をとる対処をしている。

#### 4 その他

「平成25年度石巻市震災復興推進会議開催予定」ほか【資料3】

(説明：復興政策課 高橋主査)

#### 5 あいさつ (副会長)

○**浅野副会長** 被災から2年半が経ち、今日市から示された計画のように、あと3年もすると大きな計画が具体的な形で見えてくる段階に来た。今日はコミュニティという一番心の根っこの話を聞き、改めてそういうことを意識しながら皆で力を合わせ、立派なまちづくりをしていきたいと思う。

#### 6 閉会【15:45】